

実際に使う場面を想定し 発信型英語力を養う訓練が大切

TOEICテスト、TOEICスピーキングテスト/ライティングテスト(以下、TOEIC SWテスト)の受験を通して、発信型英語力を高める効果的な指導方法、学習方法とはどのようなものなのでしょうか。テストを開発・制作しているEducational Testing Service(ETS)より認可を受けた『Tactics for TOEIC Listening and Reading Test』『Tactics for TOEIC Speaking & Writing Tests』(オックスフォード大学出版局株式会社)の著者、グラント・トゥルーさんに伺いました。

■ 企業・学校での、 ■ TOEICテストの広まりを体感

——日本では企業・学校などでTOEICテストが英語力を測るモノサシとして活用されています。この状況についてどのように感じていらっしゃいますか。

企業にとって、社員の英語力向上はグローバルな競争力を高める上で重要です。特に海外のお客様とやり取りのある業務であればなおさらです。大手海運会社など企業の英語研修を担当していたことがありますが、企業内でのTOEICテストの重要性は確実に増えていますね。

一方、大学をはじめとした教育機関でも、入学時や進級の要件としてTOEICスコアが使われる機会が増えています。ある高校では「卒業生のスコアが700点台に達する」ことをPRしています。

英語スキルを客観的に示す指標としてTOEICテストが、企業だけでなく大学・高校でも広まってきていることを強く感じています。

■ さまざまな人々にメリットのある ■ TOEIC SWテスト

——TOEIC SWテストについては、どういう印象をお持ちですか。

私自身もTOEIC SWテストのパイロット受験をしたことがあります。現実に即してデザインされたテストなの

PROFILE

グラント・トゥルー (Grant Trew)

スコットランド出身。カナダで育つ。イギリス・中東での教職経験を経て、日本の大手英会話学校で主任講師、教育開発部門責任者としてカリキュラム開発・テスト研究に携わる。現在、オックスフォード大学出版局株式会社英語教育教材部ELTエディトリアルコンサルタント。『Tactics for TOEIC Speaking & Writing Tests』などの著述に加え、全国で英語教育に関する講演活動を展開している。Cambridge/Royal Society of Arts(英国王立技芸協会)、CELTA(The Cambridge Certificate in English Language Teaching to Adults)、DELTA(Diploma in English Language Teaching to Adults)修了。



で非常に実践的です。また、初級者から上級者まで、幅広い英語学習者のスピーキング・ライティングスキルを測るのに最適なテストだと思います。学生・先生・社会人・人事担当者、さまざまな方にメリットがありますね。

まず、実践的なテストであるという点についてですが、課題を達成することが設問上で要求されるタイプのテストです。実社会で一般的に要求されるような英語のスキルを“切り取って”テスト問題としている印象です。例えば、Eメールでの問い合わせ・お客様とのやり取り、報告書の作成など、毎日使う要素が、問題として出されています。さらに、電話でのお客様対応、交渉など、現実のビジネス場面を想定した問題が素材となっているので、非常に実用的ですね。

次に、さまざまな人々にメリットがあるテストという点ですが、まず、学生にとってはリーズナブルな受験料かつ短時間で能動的な英語運用力が測れることがメリットで



しょう。先生方にとっては、実際のコミュニケーションスキルを向上させる上での波及効果が高い点が魅力のテストでしょう。というのも、テスト問題そのものが現実に即しているため、生徒がTOEIC SWテスト受験を視野に入れながら学習すると、その効果がすぐに普段のコミュニケーションにも表れるからです。ビジネスパーソンにとっては日々の業務で触れるような課題が多く、実社会の場面を想定しているテストである点が有益でしょう。企業の人事担当者などにとっては、課題が明快で小手先のテクニックでは通用せず、真の英語力が問われるテストであるという点が、大きな魅力でしょう。

また、問題がさまざまな学習者のレベルに対応できるようにデザインされているので、どのようなレベルの受験者も、自分が達成できる課題を見つけ出せるのが良いですね。音読問題、写真描写問題などから始まって、徐々にチャレンジングな設問になっていく。TOEIC SWテストなら、初級の受験者でも「テストで何もわからず、何もできなかった」と落ち込むことがないでしょう。幅広いレベルの英語学習者が受験してメリットを感じられるテストだと感じます。

■ 効率的な、“Short-cut” ■ —英語学習のための創意工夫

——トウルーさんは全国の学校、語学学会などでTOEICテスト、TOEIC SWテストに関する数々の講演の中で「私たち教師は、TOEIC対策クラスが“High-

Pain, Low-Gain”（労多くして得るところが少ない）にならないよう努める必要がある」とおっしゃっていますね。

もちろん、生徒が大量の模擬問題を与えられ、解説を聞くような従来の授業スタイルも、ある程度効果はあると思います。しかし、私自身、長年教壇に立ってきて、そのような方法が最善とは言えないと思うに至りました。というのも、授業の大半の時間を「なぜその答えは間違っているのか」という解説に割くと、学生のモチベーションが下がる傾向にあるからです。これでは“High-Pain, Low-Gain”（労多くして得るところが少ない）ですよ。私は、言語能力や知識を自分のものにする一番の近道は、アクティブに学ぶことなのではないかと思っています。

——その思いが著書『Tactics for TOEIC Listening and Reading Test』『Tactics for TOEIC Speaking & Writing Tests』に反映されているのですね。

そのとおりです。「学習者に実社会でコミュニケーションをするのに必要な英語力を体得してもらうためには、どのような課題をできるようにすれば良いのか」を分析し、皆さんにアクティブに学んでいただけるような本にしました。

実は大学で機械工学を専攻していたのですが、教師としてもエンジニアが行う問題解決の発想がとても役に立っています。エンジニアが何かプロジェクトに取り組むときは、大きな図面で全体像を眺め渡し、次に細かいパーツに分割してそれぞれの問題点を探り、それらをひとつひとつ解決して組み立てていきます。英語を教える際にも、皆さんが英語を学ぶ際にも、この発想方法は有効です。

例えば、長い会話やスピーチを理解したり、話したりすることは、とても複雑で難しい課題に見えます。時間的制約もありますから、前提知識として各単語の発音や意味、用法、一般的なフレーズの理解が必要でしょう。このように課題に必要なスキルをまとめてとらえると、非常に難解に思えてしまいがちですが、鍵となる個別のスキルを一つずつ、段階を踏まえながら取り組めば、体系的にスキルを構築することができるでし

よう。

大きく見える課題でも小さい練習課題のレベルにしていけば、敷居も低く感じますから、学習者も取り組みやすく感じるでしょう。とにかく、「自分にはできる」「やったらできた」という体験を積み上げてもらうことがとても大切だと思います。

■ TOEICテスト・TOEIC SWテストでも
■ “発信する” 練習が有効

——TOEICテスト・TOEIC SWテストの受験を視野に入れた学習の場合、具体的にはどのような積み上げが必要なのでしょう。

現実の場面を思い描きながら、発信型英語力も養う練習をすることです。TOEICテストはリスニングとリーディングという受信スキルを測定するテストだと一般的に理解されており、対策として多量の練習問題をこなして知識のインプットを行う人が多くいます。しかし、多くの人が忘れやすいのが、受信スキルと発信スキルの結びつきです。話したり書いたりすることは、頭の中の知識やスキルを強化する効果があるので、スピーキングやライティングのスキルを向上させると、リスニングやリーディングのスキルも向上します。そして、何度も何度も繰り返すことで、相乗効果が増していきます。

例えば、TOEICテストのPart3(会話問題)を考えてみましょう。ここでは、ある一定の時間の中で、自然な会話を理解するスキルが求められます。各会話の意味の解説を聞くだけでは、すぐに忘れてしまい、なかなか自分のものになりません。重要な語句・語彙・フレーズを十分に理解し身につけるには、実際に使う場面を想定して発信型のアクティブな学習活動をすることが大切です。

リスニングとリーディングのテストなのに、発信スキルの練習をするのは、時間の無駄に思えるかもしれません。「TOEICテストでは話す必要がないのに、なぜ会話の訓練が必要なのだろう」と思う方もいるでしょう。確かにそうですが、私の長年の指導経験から「発信スキルを養成すると受信スキルであるリスニング・リーディ



ングスキルも向上する」とお伝えすることができます。

TOEICテストで使われる素材は実用的で、TOEICテスト対策を通して間違いなく日常生活に役立つ言い回しや表現が身につきます。例えばPart7(読解問題)ではレストランのメニューや地図、新聞や雑誌の記事から論点を読み取る、旅行をするために海外のガイドブックを読んで理解するといったスキルが試されます。またPart3では、誰かに意見を申し立てる、説明を受け適切に理解するスキルが求められます。Part4では、空港で飛行機が遅れた、さてどこのゲートに行けばよいのかといった現実味あるシチュエーションを理解するスキルが試されます。このように常に実用的なシチュエーションを思い描きながら、発信型英語力も養う練習をしていけば、結果としてTOEICテスト・TOEIC SWテストのスコアも向上するでしょう。

■ 4技能のバランス良い学習で、
■ より高い学習効果を

——英語の4技能(リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング)をバランスよく学習することで、従来のTOEICテスト・TOEIC SWテストで求められるスキルもバランスよく伸びていくということなのでしょう。

4技能すべてが、それぞれ補完しあいますのでリスニング・リーディングを主体にしたクラスでもスピーキングスキルが伸びる要素はあると思います。しかし、英語学習者の真のコミュニケーションスキルはスピーキングやライティングスキルを併せた4技能でバランス

良い学習を行い、評価するのが理想的です。いくら話すことができても相手が言っていることが聞き取れなければ会話になりませんし、いくら読むことができても書くことができなければ相手に意思を伝えることができませんよね。相手とのコミュニケーションを意識して、バランスよく習得することが大切です。

——では、最後に英語学習者へのメッセージをお願いします。

4技能バランス良く、アクティブに学ぶ姿勢はTOEICテストに限らず、実際に英語を使う際にも重要です。効果が高いというだけでなく、英語に対する興味も一層湧くことでしょう。

もしTOEICテスト・TOEIC SWテストの受験を意識して勉強なさるなら、実践的な素材を使った学習をお

奨めします。実際のコミュニケーションで使える言い回しが身につくだけでなく、スコアも向上するからです。

語彙・ボキャブラリーの理解は間違いなく英語力の向上に役立ちますね。将来使える真の英語力を身につけるためにも、覚えたら何度も使ってみるなど、発信型英語力も高める学び方をしてください。

大学生であれば専攻科目の授業、社会人であれば仕事と、皆さんお忙しいと思います。短時間で最大限の効果を得るためにも、効率的で楽しめる勉強法を心がけてはいかがでしょうか。「短時間で効果的な英語の勉強」は「長く苦しい英語学習時間」に優る。それが私の持論です。皆さんも自分に合った勉強方法を探してみてください。